

～「LRRI メルマガ」令和8年（2026年）4月号～

★「役員&会員だより」令和8年3月号をお届けしました

本号は、「“地盤がゆるむ（緩む）”とはどういうことでしょうか？：マスメディアの責任と専門家の責任」と題して、安原代表理事に執筆いただきました。本課題は学術と実務をつなぐ良いキーワードの一つと考えられますので、会員の皆様と一緒に改めて考える機会にしたいと思います。なお、本編はHPにも掲載していますので、ご一読のうえ、ご参考ください。なお、引き続き会員の皆様のご投稿をお待ちしております。ご希望の方は、事務局（staff@lrri.or.jp）までお気軽にご一報ください。

★「土木技術資料」（令和8年4月号, Vo.70, No. 4）が届いています

土木技術資料4月号の目次をご案内致します。以下のURLから抄録がご覧になれます。

<https://www.pwrc.or.jp/wnew2604.html#mokuji>

★茨城大学小林 薫教授(LRRI 協力会員)の最終講義と懇親会が開催されました

- ◆演題：「緑の下の力持ち（地盤）研究を振り返って－社会基盤を支える地盤工学－
- ◆日時：令和8年3月27日（金）
- ◆開催形式：対面・オンライン会議併用
- ◆会場(対面)：茨城大学工学部日立キャンパス E1棟1階10教室(JX金属ホール)
(〒316-8511 茨城県日立市中成沢町 4-12-1)
- ◆参加者：最終講義 145名 祝賀会 90名

★特別賛助会員(株)JSP 様からの受託業務が終了しました

表記受託業務「EPS製排水材及びPSストランド状排水材の排水特性評価及び断熱性などの付加価値探求に関する支援、助言並びにそれらに付随する技術支援業務」は、(株)JSP様、茨城大学様とLRRIの共同研究として取り組み、3月31日に終了いたしました。なお、成果の一部は土木学会年次講演会（at 札幌）で発表予定です。概要は以下の通りです。

- ◆演題：泡スチロール材の間隙に着目した透水特性の評価
- ◆著者：伊藤 大知・白田 拓海（茨城大学）
安原 一哉(LRRI)
田中 富智夫・新田 真一・菊田 大介・橋爪 祥輝（株)JSP)
- ◆概要：

排水性を有するEPS材の透水性室内実験によって検討を行った。その結果、(1) 変形を与えない環境下では、砂礫と同等の透水性を有すること、(2) 塑性ひずみ15%を受けても、 10^{-3} m/sオーダーの透水係数を維持することができることが明らかになった。これらのことから、排水性を有するEPS材は擁壁構造物内の排水材としての適用可能性を有していると判断される。

★LRR I 技術資料 Vol. 4 を刊行しました

ホームページに掲載した資料は、下記の4編です。

- ◆常田賢一：防災・減災、国土強靱化のための発想の転換および先取り技術・工法－道路盛土のすべり崩壊、傾斜地の液状化・地盤流動、堤防の越流破堤など－
- ◆末次忠司：リスク管理の視点から考察したインフラメンテナンス－河川管理施設を中心として－
- ◆安原一哉・足立雅樹・山田岳峰・岸田隆夫・浅田寛喜・小浪岳治・小林 薫：日本における気候変動に対する地盤工学的適応策の事例分析と考察
- ◆（株）JSP：フォームサポート工法により補強された老朽化橋梁の耐震性能評価－振動台実験による有効性の検証と実務展開に向けた展望－

★茨城大学からの受託業務の成果を発表します

茨城大学地球・地域環境共創機構（GLEC）から、『自然災害・沿岸域』分野の気候変動適応策オプションの分類、費用、効果に関する調査委託業務』を受注し、取り組みを進めておりましたが、無事終了して24日に報告書を提出いたしました。本業務は、「環境研究総合推進費S-24：気候変動適応の社会実装に向けた総合的研究」の一環です。HPの会員のページに報告書等が保存しますので、その際はご一読ください。なお、成果の一部を第34回地球環境シンポジウム（下記参照）に投稿いたしました。

- ◆演題：簡易評価指標に基づく自然災害・沿岸域分野における気候変動適応策の現状分析
- ◆著者：安原一哉・岸田隆夫・浅田寛喜・足立雅樹・小浪岳治・今澤真紀・山田岳峰・田村 誠
- ◆概要：COP30（2025、ブラジル）でも結論づけられたように、気候変動適応策の課題の一つに、適応策の定量的評価の指標と評価手法が確立されていないことがあげられる。本研究はこのことを念頭において、「自然災害・沿岸域」分野における気候変動適応策の(1)経費、(2)期間、(3)適用可能性のある地域、(4)適用可能性、(5)有効性の評価に注目して簡易な評価指標・手法を提案した。次いで、その指標を「気候変動適応策オプション・データベース」における事例に適用して分析した結果を示した。特に、提案した評価指標を用いて沿岸域における適応策に注目して分析したところ、他の分野に比べて費用と期間ともより大きくかかるものの、費用対効果が高いことから、過去の事例は妥当だったことが分かった。このことから、提案した評価指標と評価手法は適応策の簡易な定量的評価に有用であることを強調した。

★関連行事のご案内です（再掲）

参加者募集中です（詳細は、HPの「お知らせ」をご覧ください）

◆「第6回技術者講座」

（一財）土木研究センターさまとの共同主催で下記の講座を開講します。

・講座名：「インフラの強靱化に関する最近のトピックス」

・日程：

令和8年5月15日（金）13:30～16:35 及び

令和8年5月22日（金）13:30～16:40 計2日間

・話題：「道路構造物（橋梁、土工、舗装）の技術基準の改定の動向」を含めた4つのトピックスを予定しています。

お申し込みをお待ちしています。

・**ご案内 (URL)** : <https://lrri.or.jp/new/7598.html>

◆資格取得支援講座「エルリ塾 Part 4 2026」

他とは異なる方式での講座を開講いたします。HP にアップしています（下記 URL を参照）ので、こちらもお申し込みをお待ちしています。第 1 回目は、令和 8 年 4 月 15 日（水）に開催済みですが、今からのお申し込みも歓迎いたします。以下 URL からお申し込みください。

<https://lrri.or.jp/new/7583.html>